

令和5年度 東中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

**令和5年度 東中中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

1 全国学力・学習状況調査

学年	生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)			
		国語	数学	英語	国語	数学	英語	
3年	学校	209	73	62	54	4.1	7.1	3.5
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2 中学生チャレンジテスト

学年	生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)					
		国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語	
3年	学校	209	68.6	58.0	62.5	53.1	63.4	8.9	2.3	7.7	6.2	3.4
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
9月5日	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5
2年	学校	213	74.5	57.3	60.6	48.7	66.5	4.7	1.9	8.5	7.5	5.1
	大阪市	—	66.7	54.6	52.2	39.8	57.2	8.2	3.2	11.2	11.1	8.6
1月10日	大阪府	—	66.8	54.2	52.2	40.3	57.1	8.3	3.5	12.0	11.8	8.9
1年	学校	215	66.1	67.1	60.6	59.0	73.1	6.1	3.8	8.1	1.7	2.9
	大阪市	—	60.6	56.0	55.4	62.2	64.1	8.7	5.2	9.1	1.9	4.3
1月10日	大阪府	—	60.8	—	54.7	—	64.1	9.6	—	10.3	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年	生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
3年	学校	200	121.8	123.0	167.0
10月20日	大阪市	—	101.3	107.7	137.9
					102.2

令和5年度 東中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

<国語>

本年度の学力・学習状況調査において国語の平均正答率は73%と、大阪府と比較して+5ポイント、全国と比較して+3.2ポイントと、大阪府平均、全国平均を上回った。

領域別に得点率を全国と比較し、詳細を見ていくと、「話すこと・聞くこと」については、1.2ポイント、「書くこと」については4.3ポイント、「読むこと」については0.7ポイント上回る結果となった。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、4.3ポイント、「我が国の言語文化に関する項目」では2ポイント、「情報の扱いに関する項目」では6.2ポイント上回ることができた。以上のように、すべての項目において、全国平均を上回る結果となつた。

また、評価の観点別では「関心・意欲・態度」について全国平均と比較すると1.7ポイント、「知識・技能」では3.9ポイント上回る結果となつた。

全国平均を大きく上回っている項目がいくつか見受けられ、合計でも全国平均を上回ることができたことは一定の評価ができる。1年生の時から継続している漢字学習や、生徒の自信ややる気につながる小テストの実施、言語活動による主体的な学びを展開してきたことが結果につながつたと考えられる。

一方、課題として、「読むこと」の観点があげられる。自分の考えていることを話したり、文章にして表現するといった活動は得意な生徒が多い反面、書かれている文章を読み解く力に課題があると考えられる。また、「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる」問題の無回答率が全国に比べて2.3ポイント高く、「文章を読むこと」に関連しているような、自信のない問い合わせに対する回答は解答することそのものをあきらめてしまうという課題が見えてきた。

<数学>

全国平均と比較すると、本校の平均正答率は62%で、大阪府平均を12ポイント、全国平均を11ポイント上回った。

本校の領域別の平均正答率は、「数と式」の領域では、73.5%（府平均：+10.3、全国平均：+10.5）、「図形」の領域では、46.8%（府平均：+13.4、全国平均：+13.6）、「関数」の領域では、59.5%（府平均：+10.0、全国平均：+8.3）、「データの活用」の領域では、60.6%（府平均：+15.6、全国平均：+12.1）であり、すべての領域で、府平均・全国平均ともに上回った。

観点別、問題形式についても、すべてで府平均・全国平均ともに上回った。

生徒質問紙では、「数学の勉強は大切だと思いますか」の項目において、最も肯定的な「当てはまる」と回答した生徒の割合が57.7%で、全国平均を7.9ポイント上回った。

本校で実施している習熟度別少人数授業では、一人ひとりに目を配りやすくしており、基礎的・基本的な学力の定着が図れたことが、今回の結果から見て取れる。しかし、全国平均を上回るもの、図形の領域の正答率が50%を下回っていること、記述式の問題の正答率が辛うじて50%を上回っている程度であることが課題である。

<英語>

本年度の全国学力・学習状況調査において、英語の平均正答率は、大阪府が45%、全国が45.6%であるのに対し、本校は54%であり、大阪府を9ポイント、全国を8.4ポイント上回った。

学習指導要領の領域等別に平均正答率を見ると、以下の通りである。

「聞くこと」の領域では、大阪府が57.4%、全国が58.4%であるのに対し、本校は66.6%であり、大阪府を9.2ポイント、全国を8.2ポイント上回った。日頃から、C-NETの先生の英語を聞き、アクティビティに取り組んでいることで、聞く力を鍛えている。また、定期テストや実力テストにおいて、毎回約10分に及ぶリスニング問題でその力を試す機会があり、これらが「聞くこと」の領域でこのような成果を発揮できた要因と考える。

「読むこと」の領域では、大阪府が50.2%、全国が51.2%であるのに対し、本校は57.5%であり、大阪府を7.3ポイント、全国を6.3ポイント上回った。これは、日頃の授業で教科書本文の読解に積極的に取り組んだ成果と考えられる。

「書くこと」の領域では、大阪府が24.8%、全国が23.4%であるのに対し、本校は34.0%であり、大阪府を9.2ポイント、全国を10.6ポイント上回った。大阪府、全国を上回っているものの、ほかの領域に比べて正答率が低い。これは、日頃の授業で英作文に取り組む時間が少なかったことが一因であると考えられる。しかしながら、「書く」問題においての無回答率は大阪府、全国をはるかに下回っており、英文を「書く」ということにおいて積極的に取り組もうという姿勢は見受けられた。

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査結果より

<国語>

今回の調査では、「読むこと」に対して課題を抱えていることが明らかになった。授業における生徒間の対話や言語活動の様子からも、何かテーマに対して考えたり話したりすることは好きだが、すでに書かれている文章を読み、理解する活動になるとあきらめ気味になってしまう生徒が一定数見受けられる。

読み取ったことをまとめるとといった取り組みを、文章をどのタイミングでも編集できるタブレットによる記述を活用し、理解したことを文にする機会を増やす活動などに取り組むことが必要だと考えられる。

また、一定の成果があつた「知識・技能」の項目に対する取り組みはチーム・ティーチングなどを活用し、今後も実施していく。

生徒の実態に応じて、「主体的・対話的で深い学び」が実践できるよう、試行錯誤しながらも、実生活に結び付く授業を研究・実践し、その取り組みを推進していく。

<数学>

数学の学習を通して、言葉や式・グラフ・表などを適切に用いて問題を解決する力、根拠を明らかにし、筋道立てて自分の考えを説明する力についていくことは非常に大切なことである。

生徒質問紙の、「数学の授業の内容はよくわかりますか」の項目において、肯定的な「当てはまる」と回答した生徒の割合が77.9%で、全国平均を4.6ポイント上回った。さらに全国平均を上回るよう、授業改善をしていく。今後も習熟度別少人数授業を通して、授業内容の定着をより一層図りたい。また、文章から数量関係を正確に読み取る力を養っていくために、問題文をしっかりと読むことを意識させていきたい。さらに数学の楽しさや優位性を考え、話し合い、発表するという言語活動の実践にも力を入れたい。

今後は、より一層生徒が数学を理解しようとする学習意欲の向上や姿勢を維持しつつ、数学の楽しさに触れられるような授業づくりをしていきたい。

<英語>

「聞くこと」の領域では、引き続きC-NETの先生の流暢な英語を聞くことやリスニングテストで、リスニング力を鍛えていく。

「読むこと」の領域では、今後も教科書本文の読解問題に積極的に取り組ませ、様々なジャンルの長文問題に取り組ませることによって、さらなる読解力を養う。

「書くこと」の領域では、いろいろなテーマに沿って英作文に取り組ませ、正確に書く力を養う。長期休暇を使って、日本の文化紹介についてまとった内容で書く英作文課題に取り組ませ、書く力を鍛える。

また、すべての領域において、必要に応じて少人数学習や習熟度別学習を活用し、学習支援を行う。

令和5年度 東中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト結果

(3年生)

【成果と課題】

<国語>

国語の合計点を見ると、68.6点と大阪府平均を6.5点上回っている。

分類別に得点率を大阪府平均と比較して詳細を見ていくと、次の通りである。

「学習指導要領の領域等」の分類では、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の区分で1.1ポイント、「情報の扱い方に関する事項」の区分で0.2ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」の区分で1.6ポイント、「話すこと・聞くこと」の区分で0.7ポイント、「書くこと」では1.6ポイント、「読むこと」では2.1ポイントと全項目において上回っている。

「評価の観点」の分類では、「知識・理解」の区分で2.9ポイント、「思考・判断・表現」の区分で4.4ポイントと全項目において上回っている。

「問題形式」の分類では「選択式」の区分では2.9ポイント、「短答式」の区分では2.9ポイント、「記述式」の区分では0.7ポイントと全項目において上回っている。

以上のように、すべての分類、区分において大阪府平均を上回るという結果になった。

今回のチャレンジテストでは、全ての項目で大阪府の平均点を上回ることができている。しかし、各分類の得点を配点に対する得点率で計算した場合、「情報の扱い方に関する事項」の区分において、その得点率は大阪府平均から1.7%上回るにとどまっている。その他の分野が4~7%前後上回っていることを考えると、この分野に課題があると考えられよう。

設問別の集計でも、正答率が大阪府平均を下回っているのは、「話す内容の一部中の空欄に入る内容を条件にしたがって書く」に関する設問に限られている。そのため、さらなる読解力の向上のための演習に加え、条件をしっかりと把握し適切な文章を書く演習等を取り入れ、弱点を克服することが今後の喫緊の課題としてあげられる。

<数学>

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は62.5点で10.3点上回った。

「数と式」の領域では、正答率が68.6% (府平均+12.4)となり、基礎的・基本的な計算の技能は身についていると考える。その他の領域については「図形」の領域で65.3% (府平均+9.3)、関数の領域で49.5% (府平均+9.5)、データの活用66.3% (府平均+9.6)と全領域において上回る結果となった。

<英語>

本年度のチャレンジテストにおいて、英語の平均点は、大阪府が54.2点であるのに対し、本校は63.4点であり、大阪府平均を9.2点上回る結果となった。

分類・区別に得点率(平均点/配点)を見ると、以下の通りである。

「学習指導要領の領域等」の分類では、「聞くこと」の区分で7.9ポイント、「読むこと」の区分で9.6ポイント、「書くこと」の区分では9.7ポイント上回っている。

「評価の観点」の分類では、「知識・技能」の区分で9.3ポイント、「思考・判断・表現」で9.1ポイント上回っている。

「問題形式」の分類では、「選択式」の区分で9.3ポイント、「記述式」の区分では9ポイント上回っている。

以上のように、すべての区分において大阪府平均を大きく上回った。

「聞くこと」の区分で大阪府平均を大きく上回ったのは、日頃の授業でC-NETの流暢な英語を聞いたり、単元ごとに授業でリスニング問題を行っていること、また、各単元の確認テストや、定期テスト、実力テストにおいても、毎回リスニング問題でその力を試す機会を設けていることが要因であると考えられる。

「読むこと」については各単元で取り上げる基礎的な構文への理解と、3年生になってから英語演習の授業で取り組んだ1、2年生の範囲の文法事項の復習、初見の長文にたくさん取り組む機会が増えたことが、一定の効果をあげたためであると思われる。

また、「書くこと」の区分での得点率は今回もっとも大きく大阪府平均を上回った。その要因としては、授業の中で並べ替え問題や和文英訳、自由英作文を練習問題や確認テストに組み込み、頻繁に英文を書くことにより、英語に苦手意識を持つ生徒も前向きに書こうとする姿勢が増えてきたためであると考えられる。

【今後に向けて】

<国語>

これまでの授業の中では、文章読解において、論理的に読むことを意識した授業を行ってきた。こうした取り組みには生徒の関心も高く、意見交換等のアクティブラーニングに積極的に取り組む姿が多く見られる。その成果か、「読むこと」や「書くこと」について、ある一定の結果が出ていることは好ましく感じられる。

しかし、「読むこと」や「書くこと」の中でも「情報の扱い方に関する事項」「話す内容の一部中の空欄に入る内容を条件にしたがって書く」力がまだまだ弱い。故に、「根拠に基づいて考えを表現する力」をつけるために、多様なテキストをクリティカルリーディングしたり、比較して読んで理解したりする授業法も取り入れる。

また、ICT機器や学習者端末を利用した授業も工夫し、生徒の興味・関心を引き出していくようにし、「読み書き」といった「基礎」を充実させるために、反復学習や復習プリントなどを徹底して行うことで、さらなる語彙・知識の定着を図る。

<数学>

チャレンジテストの結果から、習熟度別少人数授業により生徒の多くは授業内容を理解し、基礎的・基本的な内容が身についていると考えられる。しかし、「関数」の領域の正答率が50%を下回っているため、府平均を上回っているとはい、復習が必要である。

また、記述式の問題についても、府平均を12.0ポイント上回ったものの、本校の正答率は40.2%と低い結果であった。そのため、今後は数学を用いた事象を理解し、説明する力の育成に努めたい。また、言語活動を取り入れた授業展開の中で、思考力・判断力・表現力の育成に努めたい。

<英語>

「聞くこと」の区分では、今後も、C-NETの流暢な英語を聞くことやリスニングテストで、リスニング力を鍛えていく。

「読むこと」の区分では、教科書本文の各単元での読解問題に積極的に取り組ませ、さらにそれ以外の長文等も授業で用いて読解力を高める。また、読むだけではなくその内容について要約したり、発表したりする時間を確保し、内容理解を深めるようにする。

「書くこと」の区分では、今までと同じように英作文に取り組ませる。また、自分の書きたいことを具体的に考えて論理的に書く力を養うと共に長い英文を書いたり、自由英作文にも取り組んでいけるようにする。

また、すべての領域や区分において、必要に応じて少人数学習や習熟度別学習を活用し、学習支援を行っていく。

令和5年度 東中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト結果

(2年生)

【成果と課題】

<国語>

本年度のチャレンジテストにおいて、本校の国語の平均正答率は74.5点と、大阪府平均の66.8点を7.8点上回った。

学習指導領域別の得点率についても、すべての領域で大阪府平均を上回ることができた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、1.5ポイント、「情報の扱い方に関する事項」については、1.5ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」については、1.9ポイント大阪府平均を上回った。さらに「話すこと・聞くこと」については1.9ポイント、「書くこと」については1.6ポイント、「読むこと」については、2.1ポイント大阪府平均を上回っている。

評価の観点別では、「知識・技能」については75.6%となり、大阪府平均の67.6%を7.9ポイント上回った。さらに「思考・判断・表現」では72.1%となり、大阪府平均の64.4%を7.8ポイント上回った。無解答率についても、4.7%で大阪府平均の8.3%を大きく下回った。また昨年度の無解答率の数値と比較しても12.5%(大阪府平均と同値)から改善の傾向が顕著にみられる。自分の意見を書くワークシートを単元ごとに取り入れ、書くテーマを明確にして書き方の型をおさえて書くトレーニングを続けてきた結果、粘り強く書く姿勢が身についてきたと考えている。

本文の内容として適しているものを選択する古文の最後の選択問題の無解答率のみ大阪府平均を上回っており課題が見られた。(大阪府平均5.9%、本校6.6%)これは時間内に文章を読み終えて、内容を理解するまでに時間を費やしたということが要因だと考えられる。したがって早く的確に文章を読み取ることがこれから課題である。

<数学>

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は60.6点で8.4点上回っていた。

各領域別の平均点は、「数と式」の領域は21.9点(府平均+3.3)、「図形」の領域は21.6点(府平均+2.7)、「関数」の領域は17.1点(府平均+2.4)であり、全領域で上回った。

<英語>

本年度のチャレンジテストにおいて大阪府の平均が57.1点であったのに対し、本校は66.5点であり、大阪府平均より9.4ポイント上回る結果となった。

学習指導要領の領域等において「聞くこと」の領域においては、3.6ポイント上回ることとなった。C-NETとの授業やリスニングテストの実施だけでなく、小テストでのリスニングや、ディクテーションを実施することで、高い「聞く力」が定着していると考えられる。

「読むこと」の領域においては、2.6ポイント上回ることができた。一定の長さの英文を読み込むことを授業に取り入れ、指示語が表している部分について丁寧に指導をしていることで、ある程度の文章を読み取る力がついてきているという結果となった。

「書くこと」の領域においては、3.0ポイント上回った。単元ごとの確認テストをはじめ小テストで並べ替えや書き換えの問題を実施し、C-NETを含む複数教員で添削することで、基本的な「書く力」が定着しつつあると考えられる。

また評価の観点においては、「知識・技能」の観点において4.1ポイント上回り、「思考・判断・表現」の観点において5.1ポイント上回るなど、どちらの技能も大阪府平均を大きく上回ることができた。

問題形式では記述式では2.0ポイント、短答式では1.2ポイント大阪府平均を上回っているが、大きな差は見られない。

【今後に向けて】

<国語>

すべての観点で大阪府平均を上回り、昨年度からもポイントは上がっているが、自分の意見を書くことが困難な生徒がまだ少数いるため、チームティーチング授業や習熟度別授業を展開し、きめ細かな支援をしたりすることで、学力の定着を図りたい。また引き続き小テストを行い、基本的な読み書き能力の定着に励み、文章の要旨や自分の意見を書いたりする時間を単元ごとに工夫して作っていく。さらに、資料やデータを用いた意見文を書く活動も積極的に取り入れて、様々な問題に粘り強く取り組む姿勢も定着させたい。

<数学>

「関数」の領域は、府平均は上回っているものの、平均得点率が53.4%であり、60%を上回る「数と式」、「図形」の領域に比べると低い。また、観点別に見ると「知識・技能」の観点で平均得点率が70.9%、「思考・判断・表現」の観点で、42.2%である。解答別では、「選択式」で65.8%、「短答式」で60%であり、これらは50%を上回っているが、「記述式」では33.3%で50%に満たない。平均無回答率で比べると本校は8.5%であり、府の12%を下回っている。しかし「思考・判断・表現」の観点における問題の平均無回答率は20%から30%を上回るものもある。

以上の結果から、思考を必要とする問題には取り組まない傾向や、難しい問題に積極的に取り組んでいない可能性があると思われる。日ごろから生徒たちが自ら問題を解く時間を長めに確保し、解答を導くために必要な質問をし、諦めずに問題に取り組む姿勢を身に着けさせたい。

<英語>

大阪府平均を本校は9.4ポイント上回るという結果であったが、さらに実力を伸ばすために、授業内で基礎力につけるために繰り返して学習ができるよう、今後の授業構成を考える必要がある。

特に「書くこと」では、単語テストや各単元でのライティングなど授業中に実施できるものだけでなく、条件英作文や入試問題を意識した英作文に挑戦するなどして、日常的に英語を書く機会を増やすようにしていく。記述問題に対する苦手意識が見受けられるため、英文作成が大きく負担になることのないよう、まずは短い文での解答ができるように授業内での質問を増やし、少しづつ長く書くことへと移行することで、苦手意識を減らしていくように指導の体制を整える。

また「聞くこと」においては、授業中の単語や本文の聞き取り、音読や小テスト、定期テストでのリスニングだけにとどまらず、ディクテーションでの書き取りも行い、ランキングなどの特徴をとらえた聞き取りを進める。また、C-NETとの授業の中では、聞くだけではなく英語を使って会話をすることで、集中して聞き取ろうという意識を高めていく。

今年度は、生徒が意欲的に授業に取り組む姿勢は見られたが、苦手意識を持っている生徒もわずかとはいえる存在する。その生徒達にも、英語に対して興味関心が持てるような授業を展開していく。今後は自分たちで目標をもって学習を進め、考えを深められる授業にできるよう、授業内容を工夫するとともに、少人数授業やチームティーチングでの授業を活用し、生徒の学力の向上につなげていきたい。

令和5年度 東中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト結果

(1年生)

【成果と課題】

<国語>

本年度のチャレンジテストにおいて、本校の国語の平均正答率は60.8点と、大阪府平均の66.1点を5.3ポイント上回った。

学習指導領域別に得点率についても、6つある領域のうち、6項目全てが大阪府平均を上回ることができた。それぞれの項目の得点の平均を比べると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、1.6ポイント、「情報の扱い方に関する事項」については、0.2ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」については、1.2ポイント大阪府平均を上回った。さらに「話すこと・聞くこと」については0.7ポイント、「書くこと」については0.6ポイント、「読むこと」については2.0ポイント大阪府平均を上回っている。

評価の観点別では、「知識・技能」については32.7点となり、大阪府平均の29.9点を2.8ポイント上回った。さらに「思考・判断・表現」では44.6点となり、大阪府平均の41.3点を3.3ポイント上回った。特に、3問出題された漢字の問題では、正答率がそれぞれ18.8ポイント、21.8ポイント、9.1ポイント上回った。国語の授業の最初の5分などを活用し、定期的な小テストでの振り返りや重要な漢字を中心に定着を図る練習を行ってきたことが、今回の結果に結びついたと考えられる。

一方で、「楷書の特徴の組み合わせとして適切なものを選ぶ」という項目の正答率を比較すると、5.9ポイント下回っており、書写の時間の充実や指導などに課題があると考えられる。

<数学>

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は60.6点で5.9点上回っていた。

領域別に見ると、「数と式」では、得点率が61.8%（府平均+6.2ポイント）となり、基礎的・基本的な計算の技能は身についていると考えられる。また、「関数」では得点率が60.5%（府平均+3.8ポイント）、「図形」では得点率が58.7%（府平均+6.7ポイント）で、すべての領域において府平均を上回った。特に「数と式」の領域における、「素因数分解の意味を理解している」ことを問う問題については府平均+17.0ポイント、また「関数」の領域における、「関数関係の意味を理解している」ことを問う問題について府平均+13.7ポイントであったように、この2つの領域、特に「関数」の領域においては府平均を大きく上回る問題が多く、実力がついていると考えられる。

ただ、「図形」の領域における、「直線上にある点を通る垂線の作図の方法について理解している」ことを問う問題については府平均-2.5ポイントと下回っており、「図形」の領域において、しっかりと図形を読み解く力を養う必要がある。

<英語>

本年度のチャレンジテストにおいて、英語の平均点は、大阪府が54.2点であるのに対し、本校は63.4点であり、大阪府平均を9.2点上回る結果となった。

分類・区別に得点率（平均点/配点）を見ると、以下の通りである。

「学習指導要領の領域等」の分類では、「聞くこと」の区分で7.9ポイント、「読むこと」の区分で9.6ポイント、「書くこと」の区分では9.7ポイント上回っている。

「評価の観点」の分類では、「知識・技能」の区分で9.3ポイント、「思考・判断・表現」で9.1ポイント上回っている。

「問題形式」の分類では、「選択式」の区分で9.3ポイント、「記述式」の区分では9ポイント上回っている。

以上のように、すべての区分において大阪府平均を大きく上回った。

「聞くこと」の区分で大阪府平均を大きく上回ったのは、日頃の授業でC-NETの流暢な英語を聞いたり、単元ごとに授業でリスニング問題を行っていること、また、各単元の確認テストや、定期テストにおいても、毎回リスニング問題でその力を試す機会を設けていることが要因であると考えられる。

「読むこと」については各単元で取り上げる基礎的な構文への理解と、3年生になってから英語演習の授業で取り組んだ1、2年生の範囲の文法事項の復習、初見の長文にたくさん取り組む機会が増えたことが、一定の効果をあげたためであると思われる。

また、「書くこと」の区分での得点率は今回もっとも大きく大阪府平均を上回った。その要因としては、並べ替え問題や和文英訳、自由英作文を練習問題や確認テストに組み込み、授業の中で頻繁に英文を書くことにより、英語に苦手意識を持つ生徒も前向きに何かを書こうとする姿勢が増えてきたためであると考えられる。

【今後に向けて】

<国語>

すべての観点で大阪府平均を上回っているが、「書くこと」における自分の考えを書く設問の無回答率などを見ると、大阪府の割合よりは低いものの、一定数答えることができない生徒がいることがわかる。自分の意見を書くことが困難である生徒に対し、ティームティーチング授業や習熟度別授業を展開し、きめ細かな支援を行うことで、書く力の定着を図りたい。

また、引き続き小テストを行いながら基本的な学力である漢字や語彙に力を入れつつ、基本的な読み書き能力の定着に励み、文章の要旨や自分の意見を書いたりする時間を単元ごとに工夫して作っていく。さらに、資料やデータを用いた意見文を書く活動も積極的に取り入れて、様々な問題に粘り強く取り組む姿勢も定着させたい。

<数学>

チャレンジテストの結果から、生徒の多くは授業を理解し、基礎的・基本的な内容は身についている。中でも記述の問題については、大阪府平均を7.7ポイント上回っており、無解答率も府平均を約7ポイント程度下回っていることから、設問に対して積極的に考えることができたといえる。

またアンケートにおいて、「難しいことがあっても、あきらめない」という設問に対して、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が71.3%であり、府平均を6.0ポイント下回っていた。

チャレンジテストの結果とアンケートから判断できる課題について、思考力・判断力・表現力の育成に努めていくとともに、最後まで諦めずに食らいつく気持ちも芽生えさせていきたい。

<英語>

大阪府平均を本校は9.4ポイント上回るという結果であったが、さらに実力を伸ばすために、授業内で基礎力をつけるべく繰り返して学習ができるよう、今後の授業構成を考える必要がある。

特に、「書くこと」では、単語テストや各単元でのライティングなどの授業中に実施できるものだけでなく、条件英作文や入試問題を意識した英作文に挑戦するなどして、日常的に英語を書く機会を増やすようにしていく。また、記述問題に対する苦手意識が見受けられるため、英文作成が大きく負担になることのないよう、まずは短い文での解答ができるように授業内での質問を増やし、少しづつ書くことへと移行することで苦手意識を減らしていくように指導の体制を整える。

次に、「聞くこと」においては、授業中の単語や本文の聞き取り、音読や小テスト、定期テストでのリスニングだけにとどまらず、ディクテーションでの書き取りも行い、ランキングなどの特徴をとらえた聞き取りを進める。また、C-NETとの授業の中では、聞くだけではなく英語を使って会話をすることで、集中して聞き取ろうという意識を高めていく。

今年度は、生徒が意欲的に授業に取り組む姿勢は見られたが、苦手意識を持っている生徒も存在する。その生徒達にも、英語に対して興味関心を持つてもらえるような授業を展開していく。今後、自分たちで目標をもって学習を進め、考えを深められる授業につなげられるよう、授業内容を工夫とともに、少人数授業やデュオ・ペーパーチューチングでの授業を注目していかなければいけない。

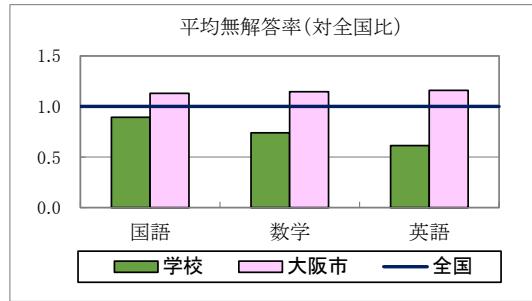
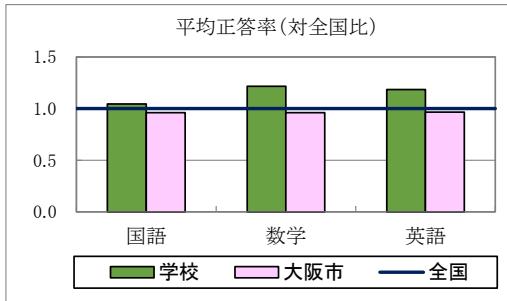
令和5年度 東中中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)		
	国語	数学	英語
学校	73	62	54
大阪市	67	49	44
全国	69.8	51.0	45.6

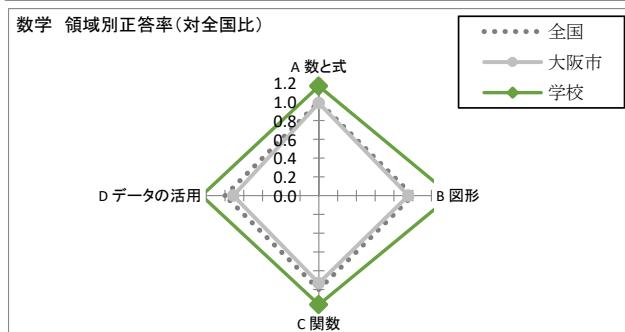
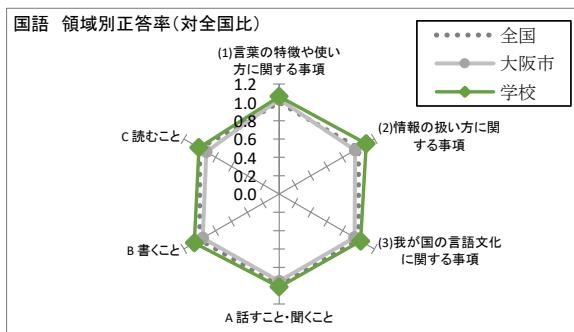
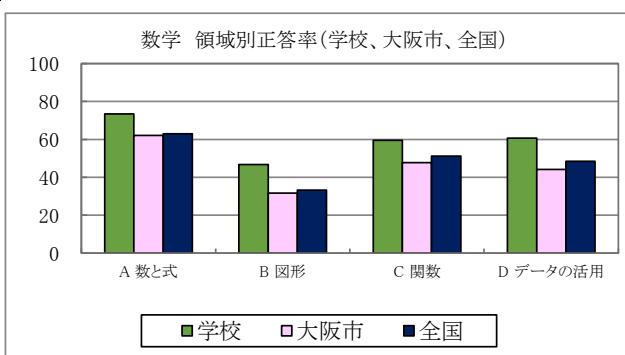
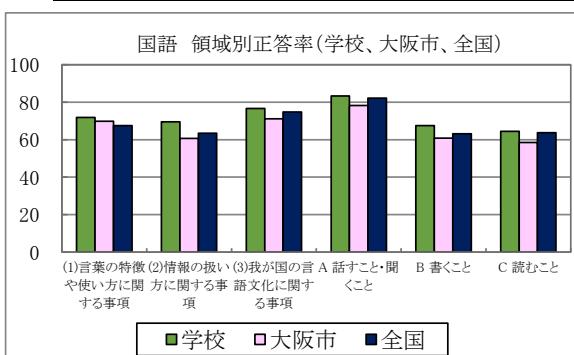
平均無解答率(%)		
国語	数学	英語
4.1	7.1	3.5
5.2	11.0	6.6
4.6	9.6	5.7



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	71.8	69.8	67.5
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	69.6	60.7	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	3	76.7	71.1	74.7
A 話すこと・聞くこと	3	83.4	78.2	82.2
B 書くこと	2	67.5	60.8	63.2
C 読むこと	4	64.4	58.5	63.7

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	73.5	62.1	63.0
B 図形	3	46.8	31.7	33.2
C 関数	4	59.5	47.8	51.2
D データの活用	3	60.6	44.2	48.5

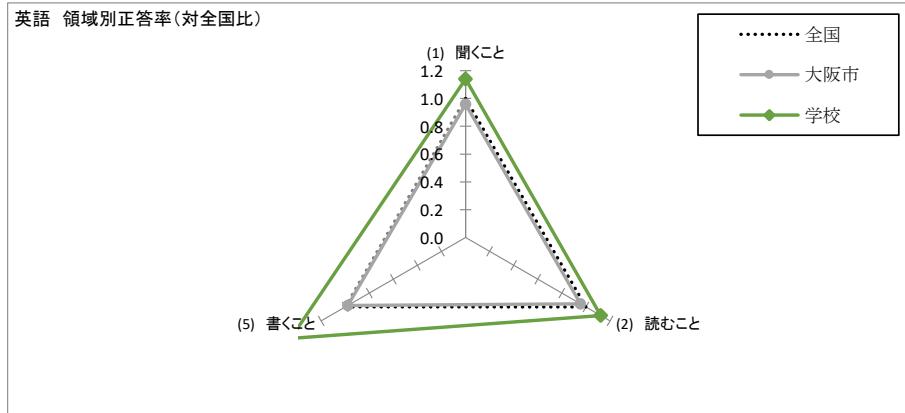
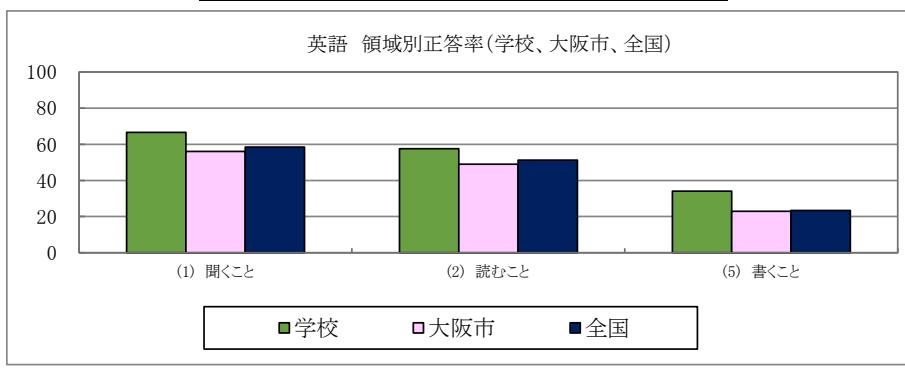


令和5年度 東中中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【英 語】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1) 聞くこと	6	66.6	56.0	58.4
(2) 読むこと	6	57.5	48.9	51.2
(3) 話すこと[やり取り]	0			
(4) 話すこと[発表]	0			
(5) 書くこと	5	34.0	22.9	23.4



令和5年度 東中中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

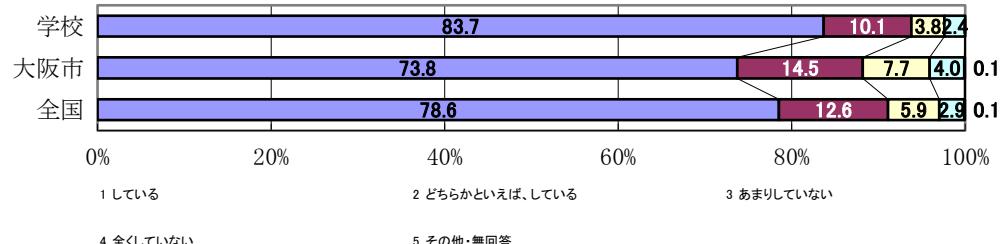
生徒質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

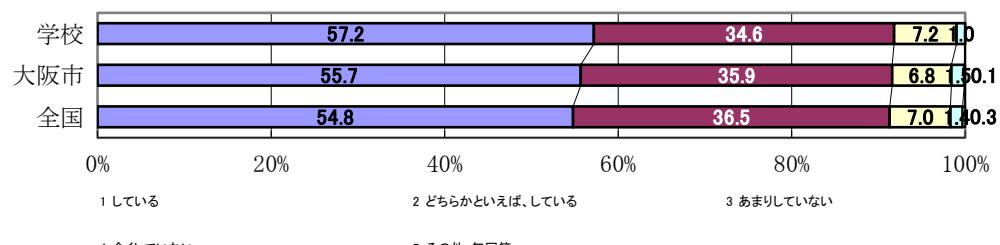
1

朝食を毎日食べている



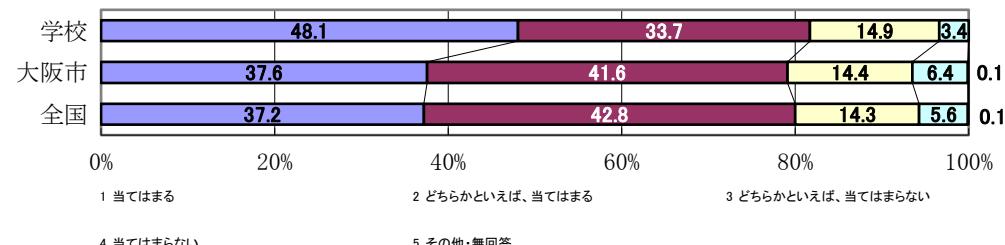
3

毎日、同じくらいの時刻に起きている



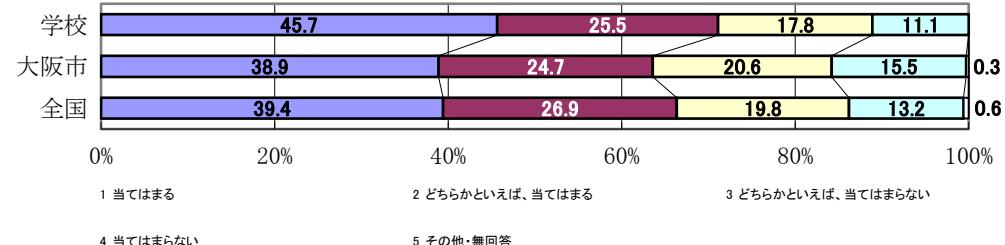
4

自分には、よいところがあると思う



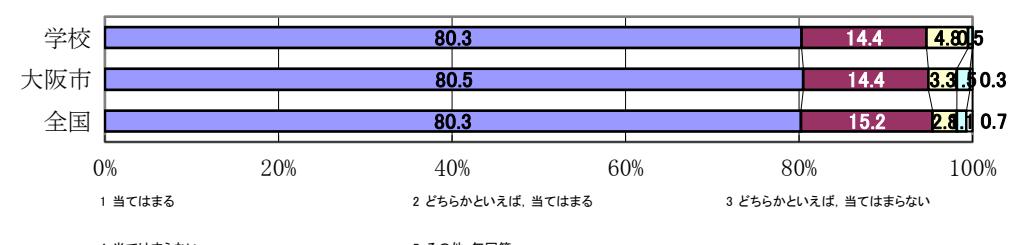
7

将来の夢や目標をもっている



9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思う



令和5年度 東中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

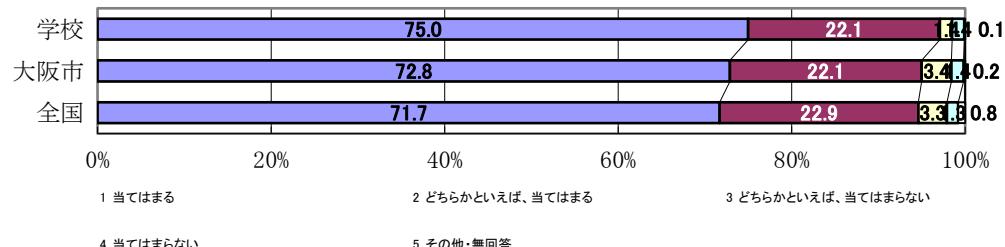
生徒質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

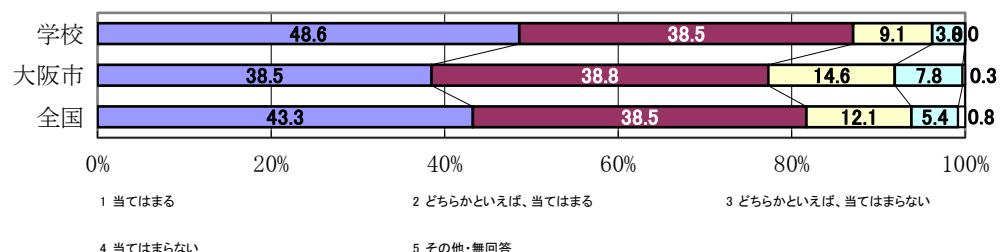
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



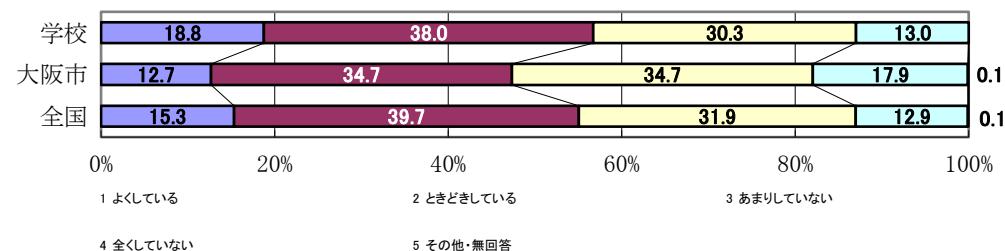
12

学校に行くのは楽しいと思う



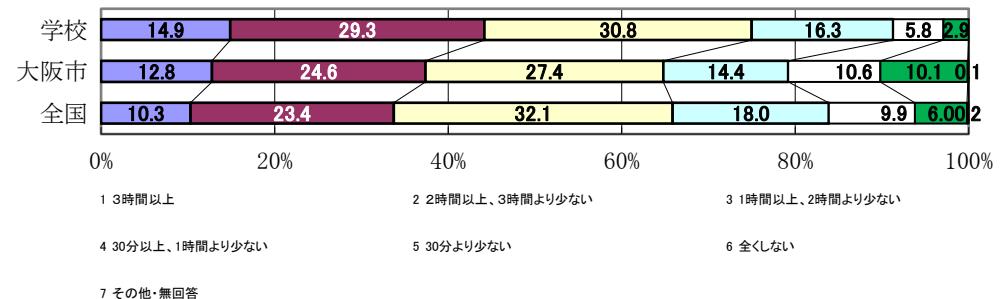
16

家で自分で計画を立て勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含みます)



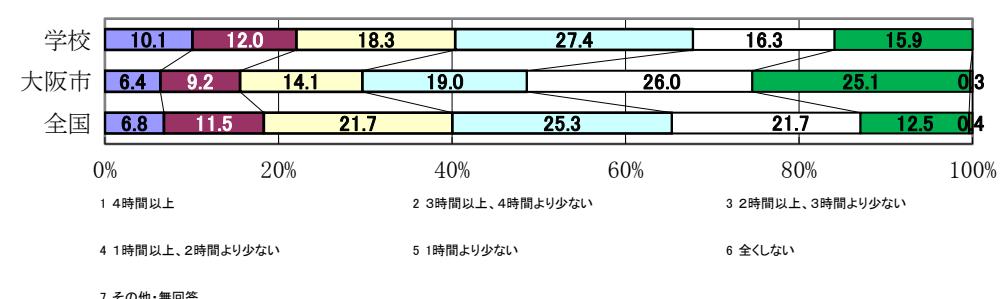
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)



18

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)



令和5年度 東中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

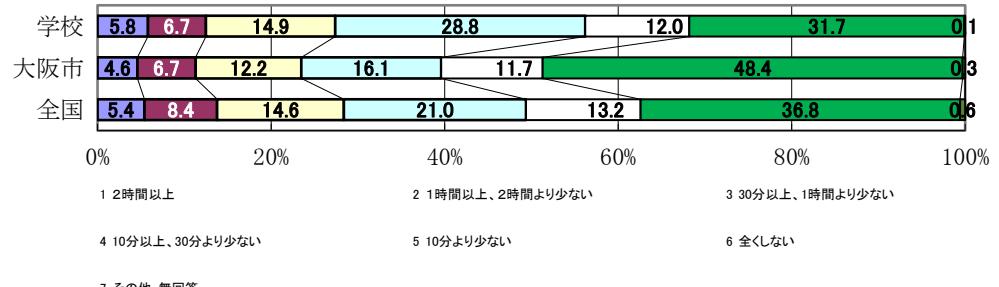
生徒質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

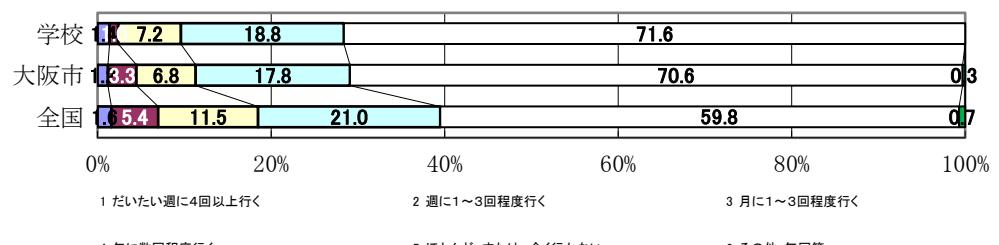
20

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含みます教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)



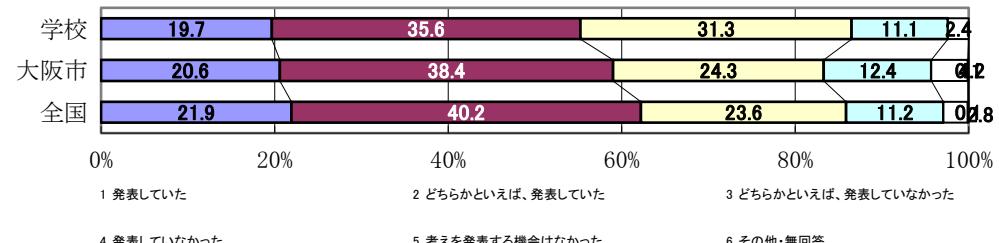
21

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館(それぞれ電子図書館を含む)にどれくらい行きますか



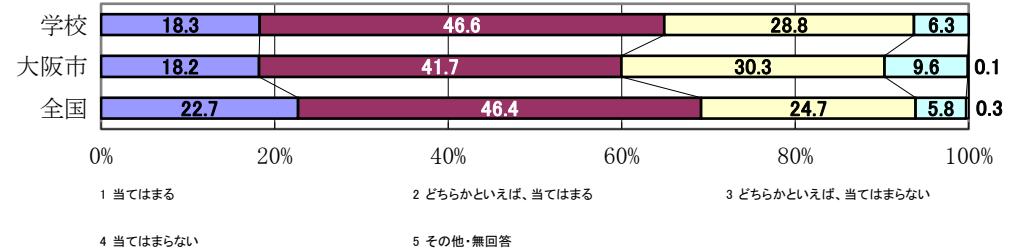
36

(1、2年生のときに受けた)授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



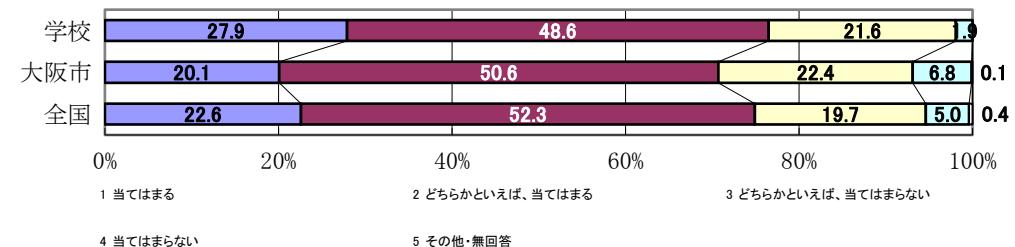
38

(1、2年生のときに受けた)授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた



39

(1、2年生のときに受けた)授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた



令和5年度 東中中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

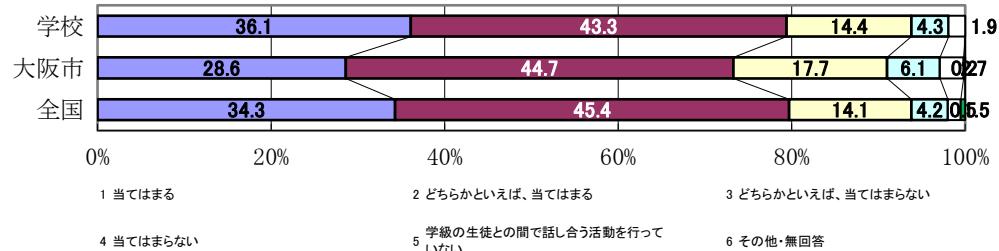
生徒質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

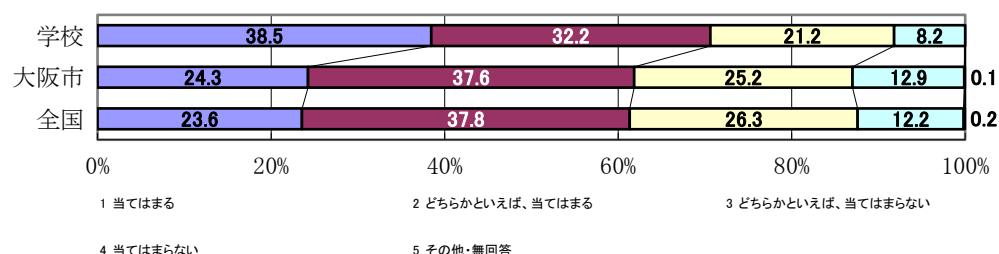
40

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



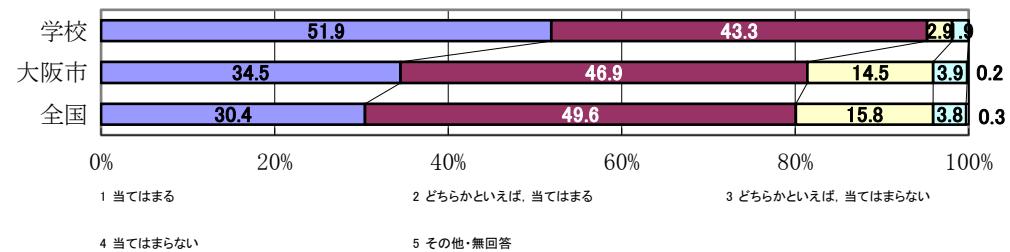
47

国語の勉強は好きだ



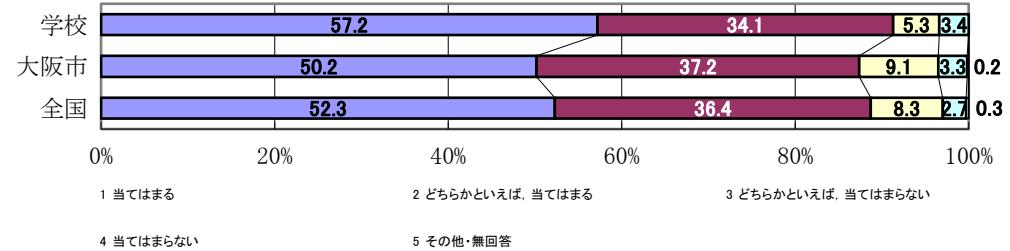
49

国語の授業の内容はよく分かる



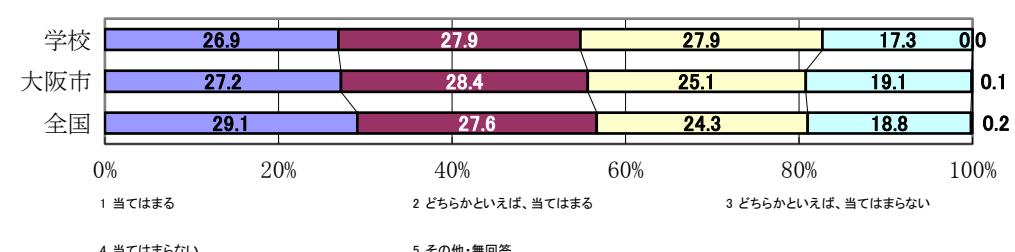
50

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ



55

数学の勉強は好きだ



令和5年度 東中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

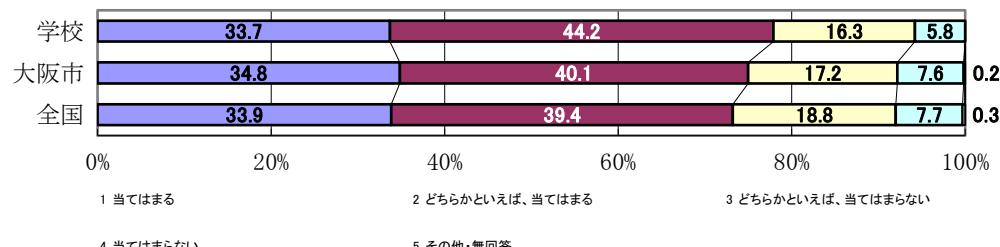
生徒質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

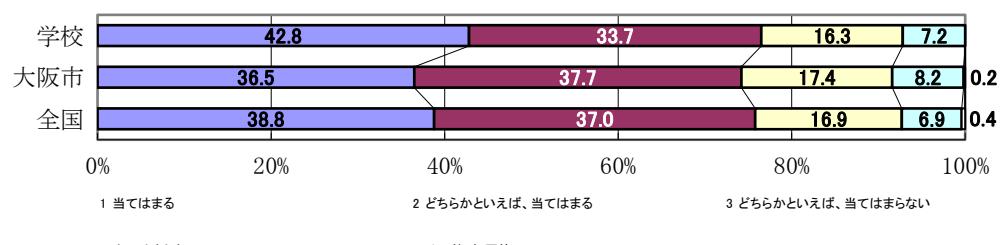
57

数学の授業の内容はよく分かる



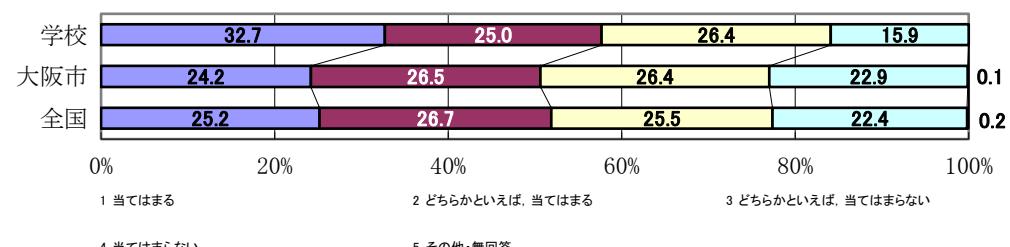
58

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ



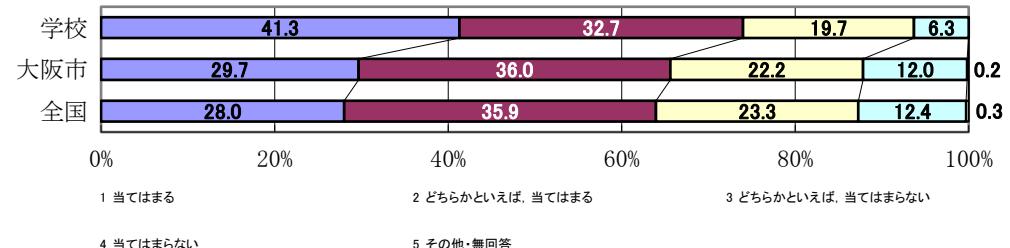
59

英語の勉強は好きだ



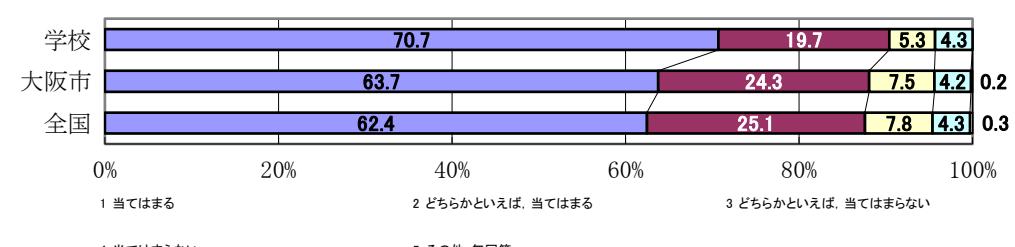
61

英語の授業の内容はよく分かる



62

英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ



令和5年度 東中中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問紙より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

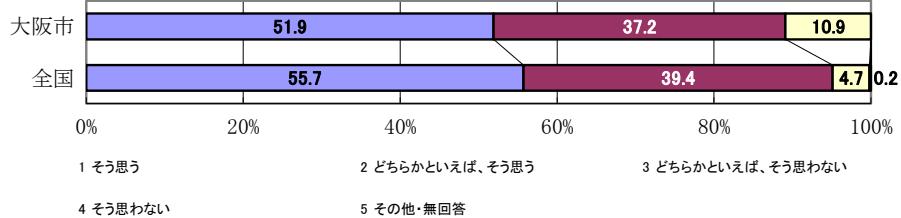
質問番号

質問事項

9

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

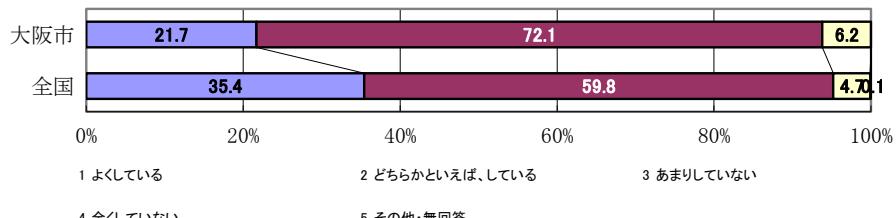
学校 「そう思う」を選択



19

生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している

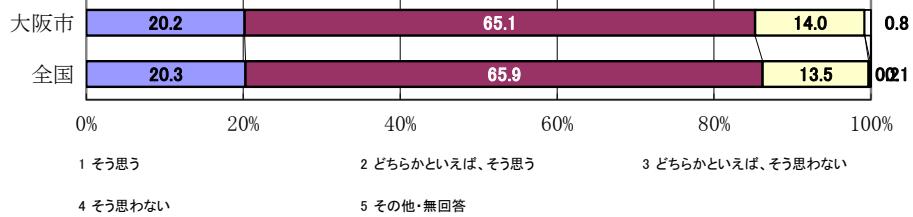
学校 「どちらかといえば、している」を選択



29

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

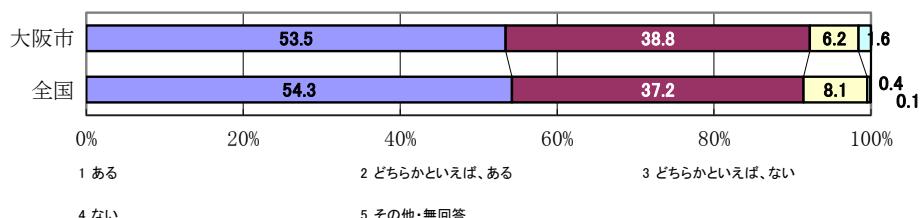
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



61

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

学校 「ある」を選択



63

調査対象である第3学年の生徒に対する、前年度までのICT機器の活用状況として、あなたの学校では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「週3回以上」を選択

